

表3-6は、規範意識と社会やおとなへの不満・不信との関係を見たものである。この表からは、今日の高校生たちのほとんどが社会に対する不満を抱いていること、また、今の社会が、弱肉強食の世の中であると思っている者も多いことがわかる。おとなへの不信感をもつ者は6割を占めており、とくに高規範群に比べて低規範群は不信感が強い。

表3-6 規範群別に見た社会やおとなへの不満・不信（「そう思う」者の比率）

社会やおとなへの不満・不信	全体	平均値	低規範群	中規範群	高規範群
今の世の中には不満に思うことが多い	85.9	3.27	88.5	83.6	87.8
今の社会は強い者が弱い者を押さえつける社会だ	70.5	2.95	69.8	69.5	73.1
おとなの言うことはあまり信用できない	60.4	2.72	67.5	59.9	54.0

第2節 青少年の規範意識の形成と要因

本節では、前節で明らかにされた調査結果を踏まえて、青少年の規範意識の形成に、どのような要因が如何に関わっているかについて、まとめておくことにしたい。本調査結果からは、次のような点が明らかとなった。

第一に、規範意識の形成には親の影響が大きいことが予想されるが、親の影響については、表3-1に明らかなように、「人に迷惑をかけない」「あいさつをきちんとする」などは約半数近くの高校生が親から大切にするように言われている。「いのちや身体の大切さ」についても4割の者は親から大切にするように言われている。しかし、「がまんをする」「相手の立場を理解するように努める」「うそを言わない」ことを大切にするように言われているのは、ほぼ5人に1人に過ぎない。

公衆道徳的な面についてみると、「社会のルールを守る」ことを大切にするように言われた者は3割弱いるが、「公共のものや場所を大切にする」ように親から言われた者は、わずか4%しかいない。

第二に、図3-1においては、親に言われていないが、自分では大切に思っている項目と親に大切にするように言われていて、自分でも大切にしている項目が示され、両者の差がわかるが、ここで差の大きい項目に注目すると、「あいさつをきちんとする」「うそを言わない」「社会のルールを守る」「公共のものや場所を大切にする」が挙げられる。これらの規範は、親から子への働きかけや教育が相対的に大きな効果を挙げている規範であると考えられよう。

第三に、規範意識が、高校生の所属する学校の進学率の高さや学校が立地している地域（ここでは都心か否か）と何らかの関係があるかどうかという点については、学校立地とは関連が見られず、進学率の高さは、「社会のルールを守る」「人に迷惑をかけない」という二つの項目で、有意な関連が認められた。進学率が高い高校に属する者ほどこれら規範を遵守しようとする傾向がある。

第四に、「がまんづよい」「意志が強い」「その場の雰囲気の流れに流され自分を見失うようなことはない」というような性格要因と規範意識との関連が認められ、「打ち込めるものがある」「生活が充実している」というような生活条件、「人の役に立つ人間になりたい」「自分の考えを大切にしたい」というような対社会的態度、現実享乐的・宿命論的・拝金主義的な生活価値観、おとなへの不信感などと規範意識との関連も認められた。